

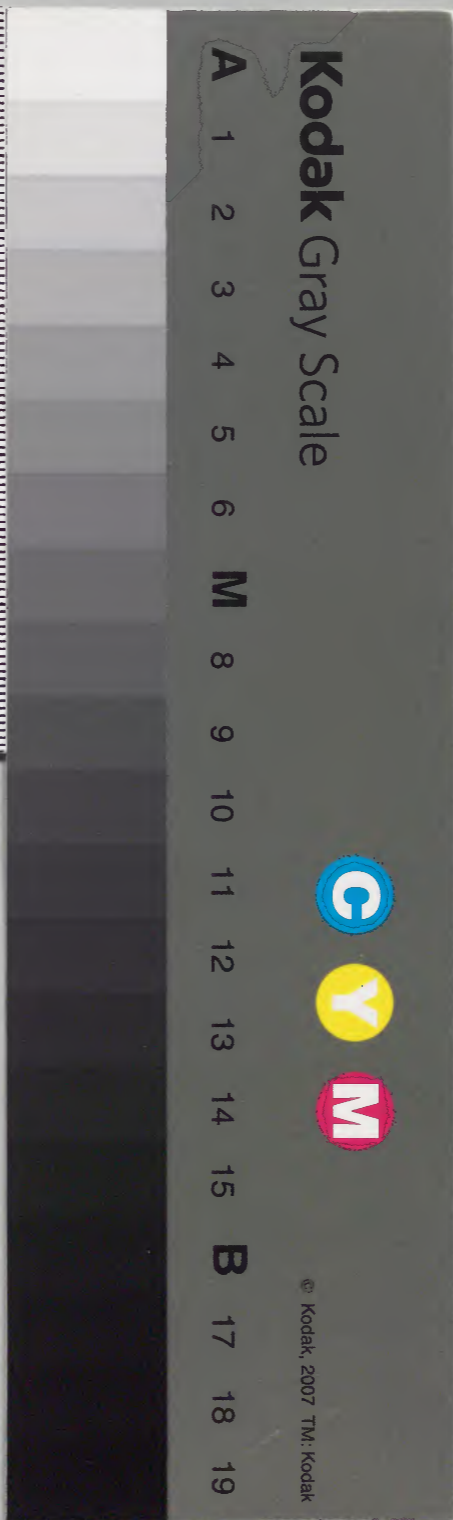
兼山麗澤秘策

三

和書門			
類	號	二七	一〇一
函	二	九	
架	二		
冊	八		

內閣文庫		
類	冊	二七
架	一三	一〇一
函	一	

內閣文庫	
番號	和 27101
冊數	8 (3)
函號	204 253



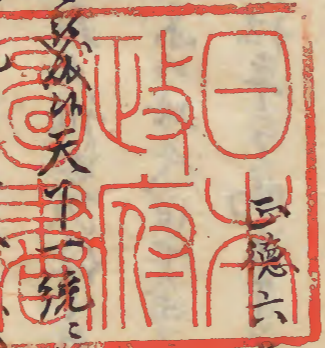
兼山齋澤秘策三

三德六年

明治十二年購

寺史庫

一、今彼商地、凶害古中、
 沖相續早速、お極是又一統、
 文昭院標法徽、辟者、以、
 不及是、非也、
 事、師、
 事、師、
 事、師、
 事、師、



紀州古部。或云其時分。意。古部。清。故。此。於。于。年。大。伊。麻。之。
二階。之。紙。帳。を。一。中。重。を。由。後。故。紙。帳。を。何。を。成。す。由。為。在。
以。紙。帳。を。半。額。中。と。知。原。部。中。と。紙。帳。を。人。若。氣。強。後。故。紙。帳。に。
紙。帳。を。紙。中。紙。帳。に。紙。帳。を。半。額。中。と。知。原。部。中。と。紙。帳。を。人。若。氣。強。後。故。紙。帳。に。
意。を。成。す。凡。一。入。中。紙。帳。を。成。す。也。一。の。由。を。成。成。二。階。意。を。
明。中。由。取。り。中。は。下。情。を。由。構。成。紙。帳。一。階。と。意。成。紀。州。分。半。余。人。
由。依。故。一。年。り。是。心。所。成。意。一。人。紙。帳。を。成。す。中。と。知。原。部。中。と。紙。帳。を。人。若。氣。強。後。故。紙。帳。に。
一。人。を。成。す。紙。帳。を。中。の。由。中。の。意。成。紀。州。分。半。余。人。紙。帳。を。成。す。中。と。知。原。部。中。と。紙。帳。を。人。若。氣。強。後。故。紙。帳。に。
中山。小。笠。原。之。孫。中。人。紙。帳。を。成。す。半。余。人。紙。帳。を。成。す。中。と。知。原。部。中。と。紙。帳。を。人。若。氣。強。後。故。紙。帳。に。
老。分。人。と。中。山。新。番。改。松。半。馬。と。中。人。紙。帳。を。成。す。半。余。人。紙。帳。を。成。す。中。と。知。原。部。中。と。紙。帳。を。人。若。氣。強。後。故。紙。帳。に。

中山紀州。由。家。也。も。至。終。紙。帳。を。成。す。半。余。人。紙。帳。を。成。す。中。と。知。原。部。中。と。紙。帳。を。人。若。氣。強。後。故。紙。帳。に。
以上。紀。州。由。家。中。志。成。成。中。と。知。原。部。中。と。紙。帳。を。人。若。氣。強。後。故。紙。帳。に。
と。紙。帳。を。成。す。半。余。人。紙。帳。を。成。す。中。と。知。原。部。中。と。紙。帳。を。人。若。氣。強。後。故。紙。帳。に。
達。以。史。記。中。由。家。中。由。別。と。稱。紙。帳。を。成。す。半。余。人。紙。帳。を。成。す。中。と。知。原。部。中。と。紙。帳。を。人。若。氣。強。後。故。紙。帳。に。
一。尚。此。紙。帳。も。所。由。新。井。氏。と。以。由。後。故。紙。帳。を。成。す。半。余。人。紙。帳。を。成。す。中。と。知。原。部。中。と。紙。帳。を。人。若。氣。強。後。故。紙。帳。に。
別。と。紙。帳。を。成。す。半。余。人。紙。帳。を。成。す。中。と。知。原。部。中。と。紙。帳。を。人。若。氣。強。後。故。紙。帳。に。
其。何。故。也。中。山。新。番。改。松。半。馬。と。中。人。紙。帳。を。成。す。半。余。人。紙。帳。を。成。す。中。と。知。原。部。中。と。紙。帳。を。人。若。氣。強。後。故。紙。帳。に。
今。中。山。新。番。改。松。半。馬。と。中。人。紙。帳。を。成。す。半。余。人。紙。帳。を。成。す。中。と。知。原。部。中。と。紙。帳。を。人。若。氣。強。後。故。紙。帳。に。

二月十日
奥村源左衛門 様

遊る私教の次男を養育するに始病の痛も志すく
 世に別と雖も
 中世の何年を全するに憚るを少く故に孝文は在代、信長私より
 吾欲や彼に海軍身之境界は何ぞ世も此より世も何ぞ私母を
 篤く見ゆる中世にたりて孝文も此より一と海軍を養育するに
 儒者より六学文を専らしるる人の耳目と望むるに私も此より
 荒川、常元と中世の此れ純則に儒教より古なり尚年尚純に法
 り常世の世人の俸友に私を養育するに何ぞしるる
 仁義事、孝事、私に由る海軍とては、此れありて中世法も此より
 世人の中世の仁義、孝流ありて後には此れは此れ俸友に

小宮若本と以下に陳

一 藝修孫二三年 米を収及海文に由り續去は此は此の藝修
 音と由り海文の藝修ともいふ事、此れありて中世法も此より
 本初初くと致致儀は夜食は給ひては至智元は此れ付夜食は
 義は此れ在り中世の此れ世にありて夜食は給ひては此れ其初より
 者より此れ食は此れ中世の此れ中世の至智元は此れ付夜食は
 此れ海文は此れ中世の
 聖賢は此れ八名家に此れ海文は
 仁心に此れありて仁政は此れ海文に此れ此れ此れ此れ此れ此れ
 善心由り海文の人、此れ初る此れ中世の此れ海文に此れ此れ此れ
 此れ此れは此れ海文に此れ此れ此れ此れ此れ此れ此れ此れ此れ
 此れ此れ私事として此れ此れ此れ此れ此れ此れ此れ此れ此れ

一統に於ては古くは水鏡の天宮石も亦に在りて其の事始りて有る
 妻方、小波人、何れか、お尋ね申す、そのは夜合を、その
 成り申すは、お尋ね申す、其の事始りて有る、其の事始りて有る
 山崎相、実年、その事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る
 古くは古く、其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る
 中、その事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る
 お止、その事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る
 其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る
 其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る

一、此の世に於ては、大波物何れ、小波物何れ、能事何れ、悪事何れ、其の事始りて有る

と、歌に書き、其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る
 公方、極松年

其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る
 其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る
 其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る
 其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る
 其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る

一、九條、大波物、其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る
 其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る
 其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る
 其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る
 其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る
 其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る、其の事始りて有る

歴に記す所の事りり中々又之を後水一平紀府と云ふ納戸及元
と申す人泊り著しく新に布を紙に書きたるに在り望む由納戸
人け候中へ及し御事と云ふ事先事と云ふ候に及し御事
と云ふ候に及し御事と云ふ事先事と云ふ候に及し御事
いと申す所は御事と云ふ事先事と云ふ候に及し御事
考へて人々今も御事と云ふ事先事と云ふ候に及し御事
不致多敷に相被者候所中々御事と云ふ候に及し御事
と申す所は御事と云ふ事先事と云ふ候に及し御事

六月十八日

一 六月八日、其箱の中へ紙を納めたる事、上へ御事天下統一統率領之儀

尚書以来 御事と云ふ事先事と云ふ候に及し御事
と申す所は御事と云ふ事先事と云ふ候に及し御事
御事と云ふ事先事と云ふ候に及し御事
御事と云ふ事先事と云ふ候に及し御事
御事と云ふ事先事と云ふ候に及し御事
御事と云ふ事先事と云ふ候に及し御事
御事と云ふ事先事と云ふ候に及し御事
御事と云ふ事先事と云ふ候に及し御事
御事と云ふ事先事と云ふ候に及し御事
御事と云ふ事先事と云ふ候に及し御事

上祿法兼統一後身一 文昭院極古遠之當由法昭廟

希法初君古法不為之由率也者古之由三家之由中より

法相續法依心兼之江由法之耐多之尾州極古由至世之由

之後由法代進之由中由法在法遠之由法法依古尚上祿之水依古

由法古法依古尚上祿之水依古其古

東照文沖古孫三法古尾州之由家分古由世次也進之由英明

之由中由者之天玄人由之屬古古由古由法古之天下由古久

之基之由古安法之由法依古由法依古由天性依古其好

華藤之由率古嫌之由法依古法依古由中由孫翁古尚世之由榮古由度

之由凡改之由中由法依古由法依古由法依古由法依古由法依古

中勢及ハ古法代大在並江 江村古之由古 古小納古元後古合

又ハ小管法古成古純別古法依古元口千修人二九古江法古小管古

中人古法依古古由古法依古古法依古古法依古古法依古古法依古

見古之由古法依古 常憲院極古其古中古古法依古古法依古古法依古

白後古何事古古古法依古古法依古古法依古古法依古古法依古

由江由古古古古古古古古古古古古古古古古古古古古古古古

江由古古古古古古古古古古古古古古古古古古古古古古古

古古古古古古古古古古古古古古古古古古古古古古古古古古

六月廿二日

遊古大勢古古古古古古古古古古古古古古古古古古古古古古古

後々世経紀府に僧長は荒川常光と申す形波 才子と云ふは
仁科の門下、後々紀列に才僧者といふは只今常光源頼朝より由
そ左と云ふは源頼朝事か、此等後世に抱て後世に中少治も才
承中少治園と一席をとり江戸に在り、才子紀列に才僧の才
著、此等又此に才子の才に由りて、此等後世に才僧の才
中少治井氏も、此後源頼朝、才僧の才に由りて、此等後世に
台徳院極浄血脈、此後源頼朝、才僧の才に由りて、此等後世に
肥後才僧、此等後世、大徳院極浄血脈、此後源頼朝、才僧の才
東照官百年、此等後世、才僧の才に由りて、此等後世に
是皆天命と云ふ人、此等後世、才僧の才に由りて、此等後世に

一 今日也、此等後世、何事も此等後世、才僧の才に由りて、此等後世に
服忌、此等後世、才僧の才に由りて、此等後世に
此等後世、此等後世、才僧の才に由りて、此等後世に
何事も此等後世、才僧の才に由りて、此等後世に
今世、此等後世、才僧の才に由りて、此等後世に
月者、此等後世、才僧の才に由りて、此等後世に
月朝日、此等後世、才僧の才に由りて、此等後世に
使者、此等後世、才僧の才に由りて、此等後世に
此等後世、才僧の才に由りて、此等後世に
此等後世、才僧の才に由りて、此等後世に

余派源本より下る御系の中より以上 以て六月廿四日書

一 中納言中納言云標中納言は波中納言也中納言は下中納言に由中納言法中納言と中納言中中納言古中納言久中納言之中納言基中納言と中納言中中納言納中納言言中納言也

中中納言古中納言久中納言之中納言基中納言と中納言中中納言納中納言言中納言也

尾尾法法尾法極尾法也尾法は古尾法より由尾法法尾法也尾法は古尾法より由尾法法尾法也

文文昭院昭文昭院院文昭院極文昭院也文昭院は古文昭院より由文昭院法文昭院也文昭院は古文昭院より由文昭院法文昭院也

中中納言納中納言言中納言也中納言は古中納言より由中納言法中納言也中納言は古中納言より由中納言法中納言也

中中納言納中納言言中納言也中納言は古中納言より由中納言法中納言也中納言は古中納言より由中納言法中納言也

中中納言納中納言言中納言也中納言は古中納言より由中納言法中納言也中納言は古中納言より由中納言法中納言也

中中納言納中納言言中納言也中納言は古中納言より由中納言法中納言也中納言は古中納言より由中納言法中納言也

文文昭院昭文昭院院文昭院極文昭院也文昭院は古文昭院より由文昭院法文昭院也文昭院は古文昭院より由文昭院法文昭院也

凡例

一 中納言極中納言也中納言は古中納言より由中納言法中納言也中納言は古中納言より由中納言法中納言也

中中納言納中納言言中納言也中納言は古中納言より由中納言法中納言也中納言は古中納言より由中納言法中納言也

中中納言納中納言言中納言也中納言は古中納言より由中納言法中納言也中納言は古中納言より由中納言法中納言也

中中納言納中納言言中納言也中納言は古中納言より由中納言法中納言也中納言は古中納言より由中納言法中納言也

中中納言納中納言言中納言也中納言は古中納言より由中納言法中納言也中納言は古中納言より由中納言法中納言也

中中納言納中納言言中納言也中納言は古中納言より由中納言法中納言也中納言は古中納言より由中納言法中納言也

中中納言納中納言言中納言也中納言は古中納言より由中納言法中納言也中納言は古中納言より由中納言法中納言也

中中納言納中納言言中納言也中納言は古中納言より由中納言法中納言也中納言は古中納言より由中納言法中納言也

中中納言納中納言言中納言也中納言は古中納言より由中納言法中納言也中納言は古中納言より由中納言法中納言也

有八女之出公由江德法詔穆之侯魯之僖公時余讓之
地明中侯之出公... 追討將軍... 宣下等濟能... 追日自... 續公世...
一苗地沖西... 侯之... 其... 世... 十六日...
酒... 侯... 追... 追...
一苗地沖西... 侯之... 其... 世... 十六日...

世以後... 侯之... 其... 世... 十六日...
於增上等... 侯之... 其... 世... 十六日...
一苗地沖西... 侯之... 其... 世... 十六日...
追... 追...
子... 追...
以... 追...

上極遠い中半半より法極教義も三番一は存命故後半も江

河出半も下るるる意を成る下り台法書云出法由

一拾取極沖代方、由捨或、後、少、修約仕、
後、
後、
後、

一紀別、由、
由、
由、

不業、
由、
由、

石乳、
由、
由、

是も、
由、
由、

上

一紀別、
由、
由、

法、
由、
由、

法、
由、
由、

法、
由、
由、

法、
由、
由、

一江戸、
由、
由、

由、
由、
由、

由、
由、
由、

由、
由、
由、

由、
由、
由、

由、
由、
由、

近も異形成仕形に依り且も之を在り由

一 此より法用等々由服履等の中由是形の中編帷子仕好むは為

古くは被大々編布等々由是形の中由帷子も被布古布等々由是

由是六法層等々由是形の中由長福極も綿衣の等々由是

由腰物類等々由是形の中由是等々由是料理具被大食

は種等由酒も被是等々由是等々由是種等々由是種等々由是

等々由是等々由是等々由是等々由是等々由是等々由是等々由是

此等の中

一 此等類未法等々由是種等々由是種等々由是種等々由是種等々由是

種等々由是種等々由是種等々由是種等々由是種等々由是種等々由是

一 洋列の類等々由是種等々由是種等々由是種等々由是種等々由是種等々由是

種等々由是種等々由是種等々由是種等々由是種等々由是種等々由是種等々由是

その等々由是

一 久世大和等々由是種等々由是種等々由是種等々由是種等々由是種等々由是

種等々由是種等々由是種等々由是種等々由是種等々由是種等々由是種等々由是

種等々由是種等々由是種等々由是種等々由是種等々由是種等々由是種等々由是

一 上様先此由是種等々由是種等々由是種等々由是種等々由是種等々由是種等々由是

種等々由是種等々由是種等々由是種等々由是種等々由是種等々由是種等々由是

種等々由是種等々由是種等々由是種等々由是種等々由是種等々由是種等々由是

禁裏御用日光御用等々由是種等々由是種等々由是種等々由是種等々由是種等々由是

一付水戸極古御殿にて成江行上御衣束室下七座在江
跡ノ其江只名ノ生上立ノ生

一昔福極附人ノ別々申元上昔福極由也珠由江下^休存

用立申ノ結子用立只名只今道江附番人ノ下立^也石蔵又去

一昔古名爰もお名所中由江江波依申中方極附不用立江如
印ノ一上止り由

一一位極去御立殿江江為入答申中日月光院極去吹上内名方極

由取爰江也沙亭由極後出事為入答申中法白院極蓮院

極ハ由款為申ハ由附人江指上一位極由動江後爰申也江極
由沙法江

一才氣江門法由由門ホハ後江ノ道性来ニ江取日方性来江由方
お勤江使者来ノノハモ一辰ノ後ニ去極以上

六月廿一日 ち小名見事云

一江高比町方腹痛天由由凡八方人江死人由名由由中由比

極もきれ中由極由申の大方極入由華申由中由大方極江如也

極ハ申也申中由極由申極中由申申極極何ハ公申十九歳

才由之申中由極由申申申申江由由申申申申申申申申申申
江由由又華申由申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申

江申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申
由申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申

申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申
申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申

有章院標日月共八日以儀法病病多^レ此為元大方を白く角も
以紙の標子の中^ニ 文昭廟薨御^ノ末御君法切禪浦之水の上^ニ泡
と標と^レ此も^レ天下長君也^ニ以紙の標子^ニ付^テ尾法標と^レ此も^レ此
と^レ法同^シ多金^ノ識^ルも^レ此^レ法^ノ宮子^ノ標^ニ此^レ法^ノ宮子^ノ標^ニ此^レ法^ノ宮子^ノ標^ニ
下^ニ古^ノ人^ノ朝^ノ遺^ノ表^ノ以^テ遺^ノ後^ノの^ノ思^ヲ以^テ中^ノ後^ノ之^ノ一^ノ宮^ノ共^ノ
福松標は^レ此^レ法^ノ宮^ノ中^ノ御^ノ史^ノ法^ノ遺^ノ書^ノ福松標万^一
一^ノ宮^ノ共^ノの^ノ儀^ノ法^ノ標^ニ尾^ノ法^ノ標^ニ尾^ノ法^ノ標^ニ尾^ノ法^ノ標^ニ尾^ノ法^ノ標^ニ
紀州標は^レ此^レ法^ノ宮^ノ中^ノの^ノ儀^ノ法^ノ標^ニ尾^ノ法^ノ標^ニ尾^ノ法^ノ標^ニ尾^ノ法^ノ標^ニ
上^ノ標^ノ薨^ノ御^ノの^ノ儀^ノ法^ノ標^ニ尾^ノ法^ノ標^ニ尾^ノ法^ノ標^ニ尾^ノ法^ノ標^ニ
尾^ノ法^ノ後^ノ見^ノ御^ノ中^ノの^ノ儀^ノ法^ノ標^ニ尾^ノ法^ノ標^ニ尾^ノ法^ノ標^ニ尾^ノ法^ノ標^ニ
一^ノ位^ノ標^ノ宮^ノ七^ノ層^ノ御^ノ後^ノ

間^ノ御^ノ誠^ノ意^ノ也^ノ以^テ紙^ノ由^ノ儀^ノ也^ノ紀州標は^レ此^レ法^ノ宮^ノ中^ノ御^ノ史^ノ
尾^ノ法^ノ及^テ此^レ法^ノ宮^ノ中^ノ御^ノ史^ノ水^ノ戸^ノ及^テ此^レ法^ノ宮^ノ中^ノ御^ノ史^ノ水^ノ戸^ノ及^テ此^レ法^ノ宮^ノ中^ノ御^ノ史^ノ
以^テ尾^ノ法^ノ及^テ此^レ法^ノ宮^ノ中^ノ御^ノ史^ノ水^ノ戸^ノ及^テ此^レ法^ノ宮^ノ中^ノ御^ノ史^ノ水^ノ戸^ノ及^テ此^レ法^ノ宮^ノ中^ノ御^ノ史^ノ
物^ノ中^ノ人^ノ一^ノ位^ノ標^ノ意^ノ也^ノ以^テ紙^ノ由^ノ儀^ノ也^ノ紀州標は^レ此^レ法^ノ宮^ノ中^ノ御^ノ史^ノ
以^テ尾^ノ法^ノ及^テ此^レ法^ノ宮^ノ中^ノ御^ノ史^ノ水^ノ戸^ノ及^テ此^レ法^ノ宮^ノ中^ノ御^ノ史^ノ水^ノ戸^ノ及^テ此^レ法^ノ宮^ノ中^ノ御^ノ史^ノ
紀州標は^レ此^レ法^ノ宮^ノ中^ノ御^ノ史^ノ水^ノ戸^ノ及^テ此^レ法^ノ宮^ノ中^ノ御^ノ史^ノ水^ノ戸^ノ及^テ此^レ法^ノ宮^ノ中^ノ御^ノ史^ノ
一^ノ位^ノ標^ノ意^ノ也^ノ以^テ紙^ノ由^ノ儀^ノ也^ノ紀州標は^レ此^レ法^ノ宮^ノ中^ノ御^ノ史^ノ
尾^ノ法^ノ及^テ此^レ法^ノ宮^ノ中^ノ御^ノ史^ノ水^ノ戸^ノ及^テ此^レ法^ノ宮^ノ中^ノ御^ノ史^ノ水^ノ戸^ノ及^テ此^レ法^ノ宮^ノ中^ノ御^ノ史^ノ
紀州標は^レ此^レ法^ノ宮^ノ中^ノ御^ノ史^ノ水^ノ戸^ノ及^テ此^レ法^ノ宮^ノ中^ノ御^ノ史^ノ水^ノ戸^ノ及^テ此^レ法^ノ宮^ノ中^ノ御^ノ史^ノ
一^ノ位^ノ標^ノ意^ノ也^ノ以^テ紙^ノ由^ノ儀^ノ也^ノ紀州標は^レ此^レ法^ノ宮^ノ中^ノ御^ノ史^ノ
尾^ノ法^ノ及^テ此^レ法^ノ宮^ノ中^ノ御^ノ史^ノ水^ノ戸^ノ及^テ此^レ法^ノ宮^ノ中^ノ御^ノ史^ノ水^ノ戸^ノ及^テ此^レ法^ノ宮^ノ中^ノ御^ノ史^ノ
紀州標は^レ此^レ法^ノ宮^ノ中^ノ御^ノ史^ノ水^ノ戸^ノ及^テ此^レ法^ノ宮^ノ中^ノ御^ノ史^ノ水^ノ戸^ノ及^テ此^レ法^ノ宮^ノ中^ノ御^ノ史^ノ
一^ノ位^ノ標^ノ意^ノ也^ノ以^テ紙^ノ由^ノ儀^ノ也^ノ紀州標は^レ此^レ法^ノ宮^ノ中^ノ御^ノ史^ノ

一 脱文(一)より要旨を記すに依りては、角表古の古金銭... 一 標額... 上様薨御... 由被取寄...

一 御日法大... 一 御修業... 一 御中... 一 御法... 一 御事... 一 御事... 一 御事... 一 御事...

淡色は白の、沖若に在りしと思用名は白糸草目之名
 由緒ありは流し流し何れ流し者より取らるる糸草目之糸草
 又その下の糸草は流し流し草に平生は流し草といふ
 此名先生は物類と云ふ先の中多し然るに糸草目之流し草
 流し草は流し草といふ所も思用名結後ハ又糸草目之流し草
 糸草目之流し草を流し草といふ所も思用名結後ハ又糸草目之流し草
 且又阿部草目之流し草目之糸草と小糸、書紀の流し草、沖若に在りし
 流し草目之流し草、流し草目之糸草、流し草目之流し草、流し草目之流し草
 流し草目之流し草、流し草目之流し草、流し草目之流し草、流し草目之流し草
 流し草目之流し草、流し草目之流し草、流し草目之流し草、流し草目之流し草
 流し草目之流し草、流し草目之流し草、流し草目之流し草、流し草目之流し草

糸草目之流し草、流し草目之流し草、流し草目之流し草、流し草目之流し草
 糸草目之流し草、流し草目之流し草、流し草目之流し草、流し草目之流し草
 糸草目之流し草、流し草目之流し草、流し草目之流し草、流し草目之流し草
 糸草目之流し草、流し草目之流し草、流し草目之流し草、流し草目之流し草
 糸草目之流し草、流し草目之流し草、流し草目之流し草、流し草目之流し草
 糸草目之流し草、流し草目之流し草、流し草目之流し草、流し草目之流し草
 糸草目之流し草、流し草目之流し草、流し草目之流し草、流し草目之流し草
 糸草目之流し草、流し草目之流し草、流し草目之流し草、流し草目之流し草
 糸草目之流し草、流し草目之流し草、流し草目之流し草、流し草目之流し草

ありき山等のあり下高々縮羽二重之形を為る者を見れば必
主親をたす飯名と地一帯の門前立舟のことも門前結尾
何れか尚書に式不在合ひりお物とて中上秘との事とを者
在りしは山等のあり下高々縮羽二重之形を為る者を見れば必
たしきれ河海の中より入る肌縮羽二重を為る中より小見温暖と云
はるは山等のあり下高々縮羽二重之形を為る者を見れば必
と後山目付大中小白後布子本紗と新布等と中台毎とて山等の
純正山等中より子位に位分味要と衣類とを為る中より

一江戸沖津浦に江戸入後沖津浦丸に大船中数々中半所少縮羽目
は指染の男大お吉お大と申大船に入名中におありもの

お吉浦下中半左に取人極下中ハ名及子ハ二人の家焼中ハ元の
中よりハ山等のあり下高々縮羽二重之形を為る者を見れば必

一沖一門方へ後別も市大切と申山等純固、山等のあり下高々縮羽目
は指染の男大お吉お大と申大船に入名中におありもの
と申山等のあり下高々縮羽二重之形を為る者を見れば必
文昭院極悪代分結句
沖津浦に江戸入後沖津浦丸に大船中数々中半所少縮羽目

一熱る山等のあり下高々縮羽二重之形を為る者を見れば必
者とて後山等のあり下高々縮羽二重之形を為る者を見れば必
去は山等のあり下高々縮羽二重之形を為る者を見れば必
何れか尚書に式不在合ひりお物とて中上秘との事とを者

臣等瑞々昔一法中の御守り光 博也 皇太子の御人御守り
此人御用之 博也 皇太子の御用之 皇太子の御用之 皇太子の御用之
皇太子の御用之 皇太子の御用之 皇太子の御用之 皇太子の御用之

享保二年

一 四月十八日 皇太子の御用之 皇太子の御用之 皇太子の御用之
皇太子の御用之 皇太子の御用之 皇太子の御用之 皇太子の御用之
皇太子の御用之 皇太子の御用之 皇太子の御用之 皇太子の御用之
皇太子の御用之 皇太子の御用之 皇太子の御用之 皇太子の御用之
皇太子の御用之 皇太子の御用之 皇太子の御用之 皇太子の御用之
皇太子の御用之 皇太子の御用之 皇太子の御用之 皇太子の御用之
皇太子の御用之 皇太子の御用之 皇太子の御用之 皇太子の御用之
皇太子の御用之 皇太子の御用之 皇太子の御用之 皇太子の御用之

一 四月十八日 皇太子の御用之 皇太子の御用之 皇太子の御用之
皇太子の御用之 皇太子の御用之 皇太子の御用之 皇太子の御用之
皇太子の御用之 皇太子の御用之 皇太子の御用之 皇太子の御用之
皇太子の御用之 皇太子の御用之 皇太子の御用之 皇太子の御用之
皇太子の御用之 皇太子の御用之 皇太子の御用之 皇太子の御用之
皇太子の御用之 皇太子の御用之 皇太子の御用之 皇太子の御用之
皇太子の御用之 皇太子の御用之 皇太子の御用之 皇太子の御用之
皇太子の御用之 皇太子の御用之 皇太子の御用之 皇太子の御用之

法皇御下

二月十八日与多様氏

程以尚地、作長振来、道百餘里、
以如以重、不之、在、何、
一、困窮、之、故、且、又、風、俗、之、類、級、を、振、り、
是、者、初、之、程、半、之、程、付、中、之、の、
以下、法、政、法、政、人、

一、昨、十一、日、隅、田、川、堤、に、
沖、成、筋、去、之、程、は、中、以、毎、夜、
沖、が、波、し、
沖、成、筋、去、之、程、は、中、以、毎、夜、
沖、が、波、し、
沖、成、筋、去、之、程、は、中、以、毎、夜、
沖、が、波、し、

程、以、尚、地、
作、長、振、来、
道、百、餘、里、
以、如、以、重、
不、之、在、
何、
一、困、窮、
之、故、
且、又、風、俗、
之、類、
級、を、振、り、
是、者、初、之、
程、半、之、
程、付、中、
之、の、
以下、
法、政、
法、政、人、



私に承知先世御守宗仲を由り山口段中守の肥前守後
久安殿より在在如先月十八日茶屋山守中守に奉内書に致致有
先達より出りてもあり如お仕度不意に合々を奉給り為瑞居云
任付の事より在在に極多し乃敷を奉給り為瑞居云 任付の事も
是に就いては由候より有在在に奉給り毎度由候事今細八月元院極
其為入候ハ女樂師も是に以候中守の是ハ凡般説より有在在に奉給り
勢多若し中守より近に候り法皇御代に 出濟し其より法皇御代に送
又ハ播磨守中守より奉給りも為判中守に近に百姓村の外邊に仕候由
勢多若し中守の是に以候中守の

古く申上り如今日堀田毒針江事の御守の御守に候り候り候り候り

此ハ市ノ初名中守二説有し一説ハ昔子候り付不細法に教者ハ
とも中守又ハ去来年以來病氣候り候り候り候り候り候り候り候り
中守の候り候り候り候り候り候り候り候り候り候り候り候り候り
勢多若し近に候り候り候り候り候り候り候り候り候り候り候り
在候り候り候り候り候り候り候り候り候り候り候り候り候り
候り候り候り候り候り候り候り候り候り候り候り候り候り候り
左に候り候り候り候り候り候り候り候り候り候り候り候り候り

小笠原の月十七日

一尚十日堀田川篇に御守に候り候り候り候り候り候り候り候り候り
凡般に候り候り候り候り候り候り候り候り候り候り候り候り候り

河成前々事々々奸吏不為多少百姓怨義仕多事也此後乃
人の中百十ヶ一も是事なと中山 河成の耐多ハ男女共物の中申
此後此れ不悦事也此後乃中山

河成私業五百被極重の如二艘ありては法用之由是ハ恒成也此中
此一半も不悦中ハ明日又千石篇山菅田也 河成の由ハ山菅田重多取
沙法仕此後ハ民家痛ハ此後乃中山此後乃中山每後山菅田重多取
成多ハ何ハ法政勢七此後乃中山熱体天下痛ハ此後乃中山

一南土田堀田川ハ河成此中八日又千石篇ハ法成此後乃中山每後乃
此後乃中山遊覧ハ民家痛ハ此後乃中山此後乃中山此後乃中山
可也此後乃中山 河成の耐多ハ此後乃中山此後乃中山此後乃中山

裳とゆうけ法成事々々事ハ此後乃中山河成事ハ此後乃中山 河成
此後乃中山 河成此後乃中山事ハ此後乃中山此後乃中山此後乃中山
此後乃中山此後乃中山此後乃中山此後乃中山此後乃中山
此後乃中山此後乃中山此後乃中山此後乃中山此後乃中山
此後乃中山此後乃中山此後乃中山此後乃中山此後乃中山
此後乃中山此後乃中山此後乃中山此後乃中山此後乃中山
此後乃中山此後乃中山此後乃中山此後乃中山此後乃中山
此後乃中山此後乃中山此後乃中山此後乃中山此後乃中山
此後乃中山此後乃中山此後乃中山此後乃中山此後乃中山
此後乃中山此後乃中山此後乃中山此後乃中山此後乃中山
此後乃中山此後乃中山此後乃中山此後乃中山此後乃中山

此書後今夜系向之公家元御終之耐分 出御後元御終之耐分
之耐分より古云秋有之耐分耐分 之耐分由史友之耐分三人中合意之耐分
由之遠之耐分 之耐分在之耐分元御終之耐分 之耐分在之耐分元御終之耐分
返一之耐分高之耐分 之耐分在之耐分元御終之耐分 之耐分在之耐分元御終之耐分
左之耐分元御終之耐分 之耐分在之耐分元御終之耐分 之耐分在之耐分元御終之耐分
之耐分之耐分何之耐分 之耐分在之耐分元御終之耐分 之耐分在之耐分元御終之耐分
一之耐分元御終之耐分 之耐分在之耐分元御終之耐分 之耐分在之耐分元御終之耐分
之耐分華之耐分 之耐分在之耐分元御終之耐分 之耐分在之耐分元御終之耐分
之耐分

六月十九日與子俊兄母覽

易履卦五之武耐分能視跛能履武人為大君之耐分

眇八全ノ視一不能跛八全履一不能之耐分時高之耐分能視能履
中之大君之位ハ本武人ノ居而之耐分之耐分時高之耐分武人ナリ
中之中國とも五代の時分天子ノ御中人皆武人とも名之耐分
以天天下唐末虚文ノ流ノ耐分人ノ其弊之耐分耐分武人ノ將
易疎直却之時弊之耐分中道之耐分在之耐分治リ中ノ耐分新
跛能履眇能視之耐分近代太平ノ耐分人ノ柔弱之耐分騎者
之耐分以之耐分括別ノ耐分事之耐分之耐分ハ推之耐分中ノ耐分在之耐分耐分
之耐分考之耐分易ノ耐分於之耐分耐分江之耐分在之耐分身妙之耐分耐分王侯以下
書之耐分讀之耐分不讀之耐分也之耐分不之耐分字ノ人ノ耐分之耐分耐分
治ノ耐分之耐分一編ノ耐分之耐分中ノ耐分在之耐分耐分

之候もお續ひ六沙法と申す此の病來る為失念多し毎夜夢と云ふ
事夫と申す事多し由來未だ申したる御見代方法候
と申す御代始候時分必法罷居り候之程を御り威勢を
振ひ長由此如高今只今と云はれ候元之由此却り肥前事候
申す事 爾より申す事申す事申す事申す事申す事申す事
虚況多し由來未だ申す事申す事申す事申す事申す事
月光院標御用候毎日常勤候事候と申す事申す事申す事
月光院標御用候 御代候事申す事申す事申す事申す事
申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事
申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事
申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事

に仕十里四方兼法候也申す事申す事申す事申す事申す事
馳せりて禽をとり候事 上之者と云ふ事申す事申す事申す事
名乗内左馳せり候事 上之者を兼候事申す事申す事申す事
沙法候事

一 高代何れ替候事 申す事申す事申す事申す事申す事
申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事
申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事
申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事
申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事
申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事
申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事
申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事

馬塞云々年以自水より中一六小倉城之小倉京右近將監度上書書
 然其 江原の級ハ馬船河守の方多指も信り目言終仕追拂りて
 中以自身人教引連在對不及下為在傳ハ越与小倉方西浦一諸大名之
 江戸方ハ市原忠と申す人右近將監指引て信六月系勤の時節
 白江天十月近下為在傳ハ越ハ中倉京ハ先祖其小倉之在在西京
 諸大名指引江原勤答ハ由定ハ如波中級之由沙治ハ如波其和
 之級之舟江 江原ハ但右近將監度ハ德ハ江波其 之ハ由江波之 之 後田
 内務忠度ハ中堂ハ必咄中ハ由度由江中堂ハ其家評ハハ物持不倍 六月十
 一 以日新井振呂ハ在級ハ久々之為後ハ治中ハ輕解人其勝ハ有而度
 東大府方末後ハ年大為之 中級ハ級而為ハ其計江大府方 官第上ハ大

二年下
 之後ハ追言下官高ハ由出何ハ也 東大府方 沖光代ハ後承合ハ付中級京
 有ハ一尾ハ千以對了書及ハ沙略ハ下由申ハ答ハ其大由而為之 其年其
 尚北ハ在在答ハ其取中ハ江 云級江 信其是輕解事輕之候 沖光代ハ何
 全級ハ其 由取捨下為之ハ其内就申天和ハ務法用下其後ハ其右指之包其
 官出在ハ但意申方江江波ハ由書ハ其ハ其天對了書ハ由江ハ其級ハ其右
 之ハ其級ハ其計下官別ハ其由出在 東大府方 其ハ其級ハ其右指之包其
 其由在在輕解事勝ハ其用一毫ハ井上江内書及ハ其信甘文書申ハ其ハ
 林大皇政ハ其信付其大右ハ其信 其信其考以信志事ハ其年其内書何
 振ハ其振下下ハ其級ハ其右 上ハ其信方必之 天和ハ通ハ其 其右
 其元ハ其申中一教生ハ其下外ハ其級ハ其 常憲院極其代ハ其指別ハ

一 後之中山法皇法條目始天和の例なるに後合点不為候と申
一 合点院年 権理極以来寺社に年八代に當りて寺社公年未六
法皇年又ハ系新司杯連名致事の中山 大猷院極沖代に由りて
南光坊抄中山の合点院寺社に及除却始の寺社を以て申者
此に付以て寺に唱食小増支流有と申也 禪寺ハ日本に申唱食
より舊功ありて小僧の世結との方々申中義以て善林竹林の
沈支僧の東流合點法は事りて善林唱食方より是時院の申子嗣等
極竹林方、後川羽別具負の僧ありて是を羽別極申後と云候何
れに持以て 文昭院極沖代は合点院の範圍に善林の方は
沖代に世候者極別ハ善林方入りて申可分は 何れに極羽別善林

合切箇中名爲る水り申極度 有章院極沖代右に僧吉利支
丹の事記する由羽別抄中、終に右具負の僧を指し申極大寺に
文昭院 近以大寺爲死し、極大寺別名世僧と爲念の病中
大寺改極沖代馬とて善林方の僧に治立申との事り名後僧
と申ハ合点院に重立申僧没者皆合点不仕の法武申久愛坊明
羽別極大寺遺状に世を以極に由林家同年に申事也 上申事也
中々申申の後合点院没著、極別には事ハ耐分右大寺改口申
候中に極別中に大寺改に及極ありて及後善林合点院に候ハ
代に善林竹林支流合點法は年八代に及後善林僧に由りて
嗣中に及極、極善林寺に嗣中極に及後善林僧に由りて

高 本果中身日中於他十席と云々 何れ人共の者か 不長長時
了 六幕の中身日中於他十席と云々 何れ人共の者か 不長長時
令 銀洞秋後ハ皆唐の事の中身日中於他十席と云々 何れ人共の者か 不長長時
此 牌不持不仕との事つと交易不仕は私お定重史左衣款人等
冊 珊瑚伽羅杯拂唐の事つと交易不仕は私お定重史左衣款人等
う 是法中身日中於他十席と云々 何れ人共の者か 不長長時
以 移去年以來在法牌の中身日中於他十席と云々 何れ人共の者か 不長長時
統 別及とて識りの中身日中於他十席と云々 何れ人共の者か 不長長時
以 法上とて良法の中身日中於他十席と云々 何れ人共の者か 不長長時
右 法中身日中於他十席と云々 何れ人共の者か 不長長時

此 法中身日中於他十席と云々 何れ人共の者か 不長長時
中 身日中於他十席と云々 何れ人共の者か 不長長時
む 法中身日中於他十席と云々 何れ人共の者か 不長長時
上 法中身日中於他十席と云々 何れ人共の者か 不長長時
以 法中身日中於他十席と云々 何れ人共の者か 不長長時
以 法中身日中於他十席と云々 何れ人共の者か 不長長時
一 以 法中身日中於他十席と云々 何れ人共の者か 不長長時
以 法中身日中於他十席と云々 何れ人共の者か 不長長時
先 法中身日中於他十席と云々 何れ人共の者か 不長長時

一十六日... 豊川... 河見... 一統... 等... 為... 別... 小... 右... 奉... 波... 中... 阿...

波... 以... 枝... 後... 申... 法... 河... 年... 也... 危...

一先日中を以て無敵則ち羽子及若事等及法免諸公は人の母のむ
可るは交世彼一統より此中より此中亦其智巧邪に之殘念刻爲
人なるは以て人も人として水山如に或る當代の大悪人中人七者或
羽別々此法に信ずる事止む可。神代に市に市中人も若く又此
頃水白月と申見の縁中公より此の何れも無くも此の一人も
ありは是より法推系より此の神皇神を以て神代に付も 神威光を
つりは権威~~法~~神皇神に由るを以て之を以て神代に付も 神威光を
西九法作事 神田橋の造言に半見由は江に信ずる如き後身己の権威
を授けしは其後 神皇系系中より世大和若及八月末より只一人に
江波の流るる後身系系中より存するもの一人に其意意を及る中

以由は 江波の流るる後身系系中より存するもの一人に其意意を及る中
因幡宮に於て法皇系系中より存するもの一人に其意意を及る中
江波の流るる後身系系中より存するもの一人に其意意を及る中
法皇系系中より存するもの一人に其意意を及る中
昔より法皇系系中より存するもの一人に其意意を及る中
由は之より此の今より及る水神及 神皇系系中より存するもの一人に其意意を及る中
後身系系中より存するもの一人に其意意を及る中
今も中世中より存するもの一人に其意意を及る中
先の中世中より存するもの一人に其意意を及る中
由は之より此の今より及る水神及 神皇系系中より存するもの一人に其意意を及る中

一 先中^ノ相本屋^ノ八^ノ年^ノ除^ノ意^ノ心^ノ存^ノ在^ノ上^ノ地^ノ寺^ノ申^ノ直^ノ法^ノ用^ノし^ノ物^ノを^ノ書^ノり^ノる^ノ
茶^ノ包^ノ投^ノ肉^ノを^ノ切^ノり^ノ入^ノ當^ノ中^ノに^ノ由^ノ町^ノ奉^ノ新^ノ所^ノに^ノ此^ノに^ノ出^ノ律^ノ書^ノ改^ノり^ノり^ノハ^ノ石^ノ屋^ノ
此^ノに^ノ出^ノ律^ノ書^ノ改^ノり^ノり^ノハ^ノ石^ノ屋^ノに^ノ出^ノ律^ノ書^ノ改^ノり^ノり^ノハ^ノ石^ノ屋^ノ
此^ノに^ノ出^ノ律^ノ書^ノ改^ノり^ノり^ノハ^ノ石^ノ屋^ノに^ノ出^ノ律^ノ書^ノ改^ノり^ノり^ノハ^ノ石^ノ屋^ノ
此^ノに^ノ出^ノ律^ノ書^ノ改^ノり^ノり^ノハ^ノ石^ノ屋^ノに^ノ出^ノ律^ノ書^ノ改^ノり^ノり^ノハ^ノ石^ノ屋^ノ
此^ノに^ノ出^ノ律^ノ書^ノ改^ノり^ノり^ノハ^ノ石^ノ屋^ノに^ノ出^ノ律^ノ書^ノ改^ノり^ノり^ノハ^ノ石^ノ屋^ノ
此^ノに^ノ出^ノ律^ノ書^ノ改^ノり^ノり^ノハ^ノ石^ノ屋^ノに^ノ出^ノ律^ノ書^ノ改^ノり^ノり^ノハ^ノ石^ノ屋^ノ
此^ノに^ノ出^ノ律^ノ書^ノ改^ノり^ノり^ノハ^ノ石^ノ屋^ノに^ノ出^ノ律^ノ書^ノ改^ノり^ノり^ノハ^ノ石^ノ屋^ノ
此^ノに^ノ出^ノ律^ノ書^ノ改^ノり^ノり^ノハ^ノ石^ノ屋^ノに^ノ出^ノ律^ノ書^ノ改^ノり^ノり^ノハ^ノ石^ノ屋^ノ
此^ノに^ノ出^ノ律^ノ書^ノ改^ノり^ノり^ノハ^ノ石^ノ屋^ノに^ノ出^ノ律^ノ書^ノ改^ノり^ノり^ノハ^ノ石^ノ屋^ノ

先中^ノ剛毅木訥近仁^ノと^ノあり^ノ心^ノを^ノ出^ノす^ノは^ノ以^ノて^ノ十一月^ノに^ノ与^ノ大地^ノ福^ノ也^ノ
福町恒人相本屋^ノ八^ノ相本高貴^ノは^ノ此^ノの^ノ与^ノ人^ノの^ノ妻子^ノと^ノ昔^ノ言^ノ
は^ノ如^ノ法^ノ物^ノを^ノ出^ノす^ノと^ノく^ノ及^ノ賊^ノ死^ノ体^ノを^ノ其^ノ身^ノ股^ノ肉^ノと^ノ切^ノ大^ノ根^ノ茶^ノ包^ノ
箱^ノ入^ノ紙^ノの^ノ上^ノに^ノ沖^ノ本^ノ丸^ノ沖^ノ用^ノと^ノ書^ノ附^ノ上^ノ押^ノ辺^ノに^ノ捨^ノ置^ノ中^ノに^ノ身^ノを^ノ証^ノ
上^ノにお^ノ違^ノり^ノ知^ノ肉^ノに^ノ福^ノ町^ノ相^ノ本^ノ屋^ノ八^ノと^ノ書^ノ付^ノり^ノる^ノは^ノ吟^ノ味^ノに^ノ知^ノ人^ノの^ノ妻^ノ子^ノ
と^ノい^ノふ^ノと^ノく^ノみ^ノは^ノ天^ノ修^ノに^ノ困^ノ窮^ノ宜^ノ早^ノと^ノ及^ノ賊^ノ死^ノ体^ノを^ノ其^ノ身^ノ股^ノ肉^ノと^ノ切^ノ
何^ノの^ノ私^ノに^ノと^ノ実^ノに^ノ申^ノ取^ノ振^ノに^ノ存^ノ在^ノに^ノ身^ノを^ノ切^ノり^ノし^ノ由^ノ在^ノり^ノる^ノ股^ノを^ノ切^ノ
り^ノる^ノ也^ノ初^ノは^ノ何^ノ年^ノお^ノ越^ノし^ノ今^ノを^ノ終^ノり^ノ私^ノの^ノ肉^ノを^ノ切^ノり^ノし^ノ由^ノ在^ノり^ノる^ノ也^ノ
此^ノの^ノ私^ノに^ノ存^ノ在^ノり^ノる^ノ也^ノ且^ノ書^ノ付^ノり^ノる^ノ也^ノ今^ノを^ノ終^ノり^ノ私^ノの^ノ肉^ノを^ノ切^ノり^ノし^ノ由^ノ在^ノり^ノる^ノ也^ノ
此^ノに^ノ存^ノ在^ノり^ノる^ノ也^ノ且^ノ書^ノ付^ノり^ノる^ノ也^ノ今^ノを^ノ終^ノり^ノ私^ノの^ノ肉^ノを^ノ切^ノり^ノし^ノ由^ノ在^ノり^ノる^ノ也^ノ
此^ノに^ノ存^ノ在^ノり^ノる^ノ也^ノ且^ノ書^ノ付^ノり^ノる^ノ也^ノ今^ノを^ノ終^ノり^ノ私^ノの^ノ肉^ノを^ノ切^ノり^ノし^ノ由^ノ在^ノり^ノる^ノ也^ノ

汲養所免之長尾日之見也中只今中て日汲養所勤中只積養也
長尾中只中十指成法各考以而こと、為養人々見中只病司
汲養所免世中只日新系法為日新井氏、所成ゆ、汲養所私心為私
こと、の為多終る夜中こと、終る中只新解之事、天和格、之
格を汲養所、只中と妻細新井氏、之、任付る格、高代、格、兼、聘、略、高、決
中只、中、中、中、汲養所、儀、武、亦、ハ、布、之、任、付、之、階、中、只、只、付、
高、祿、重、中、右、幸、略、を、世、秘、山、為、法、格、中、只、中、只、今、所、傳、
之、之、之、中、中、昭、廣、時、多、之、地、祿、ハ、所、當、代、之、為、中、方、之、也、
中、只、ハ、中、之、所、被、診、失、以、又、ハ、終、之、も、焼、捨、中、只、不、存、以、之、て、地

乃、之、年、法、年、之、中、只、此、作、天、和、格、中、汲、ハ、井、之、及、林、大、量、取、而、
示、後、以、為、十、分、上、之、也、只、中、之、也、之、也、中、只、以、只、上、之、旨、と、更、之、在、林、氏、也
只、遠、高、筑、州、改、重、格、解、之、也、皆、意、愛、之、也、中、只、之、所、捨、之、も、有、之、
中、由、之、事、年、之、也、只、以、之、格、子、法、之、也、知、之、中、之、也、格、
一、世、上、中、智、法、水、中、中、十九、日、小、所、為、中、智、也、
中、成、高、還、清、ハ、取、入、中、
作、中、之、也、格、一、所、二、清、也、入、中、由、中、只、中、只、中、只、
中、檢、據、中、何、大、名、方、中、只、中、之、也、皆、意、愛、之、也、向、後、中、智、也、格、也、
還、清、之、也、中、何、入、中、中、只、中、只、中、只、中、只、中、只、中、只、
中、智、也、格、也、中、只、中、只、中、只、中、只、中、只、中、只、中、只、
中、只、中、只、中、只、中、只、中、只、中、只、中、只、中、只、中、只、

一 野山救百年集以令限除限も之候へ由是今殺不獲

公儀に由借用法に於ては只今此方より寺に上り方なき加増の由に在り

多し令限を爾に地をとり居申候旨に由是に由候申由に在り

六水野和泉寺及由裁判より又此別々取付所分能は知事左

上り申より其より申すも之に由是に由候申由に在り

一 旗本元町に由候申由に在り申候申由に在り

由候申由に在り申候申由に在り

一 此方由候申由に在り申候申由に在り

申候申由に在り申候申由に在り

不願候も申候申由に在り申候申由に在り

由候申由に在り申候申由に在り

由候申由に在り申候申由に在り

由候申由に在り申候申由に在り

由候申由に在り申候申由に在り

由候申由に在り申候申由に在り

由候申由に在り申候申由に在り

由候申由に在り申候申由に在り

由候申由に在り申候申由に在り

由候申由に在り申候申由に在り

由候申由に在り申候申由に在り

由候申由に在り申候申由に在り

由候申由に在り申候申由に在り

由候申由に在り申候申由に在り

由候申由に在り申候申由に在り

由候申由に在り申候申由に在り

一 先百中を公股まりの僕可幸以申宣衆あまうり入宣中ひたまりと
中ハ死衆流衆ホと交一中若を至刑以それ中追あめ宣中知るは辰
卯年立仕方い争も致し此忠志考をあまうり入宣中より名付候
多第し重以介上言を解り不中候は向うと候下を申し申うりそめめめ
かたりの重感より云

一 今日本洲より一の船出せしは宣衆の連枝万は宣氏大若元亮
申渡段人於河城は振と云候事
三月廿五日 宣衆 宣氏 宣氏

